

(シンポジウム: 非正規雇用と年金制度)

雇用と年金の連携について

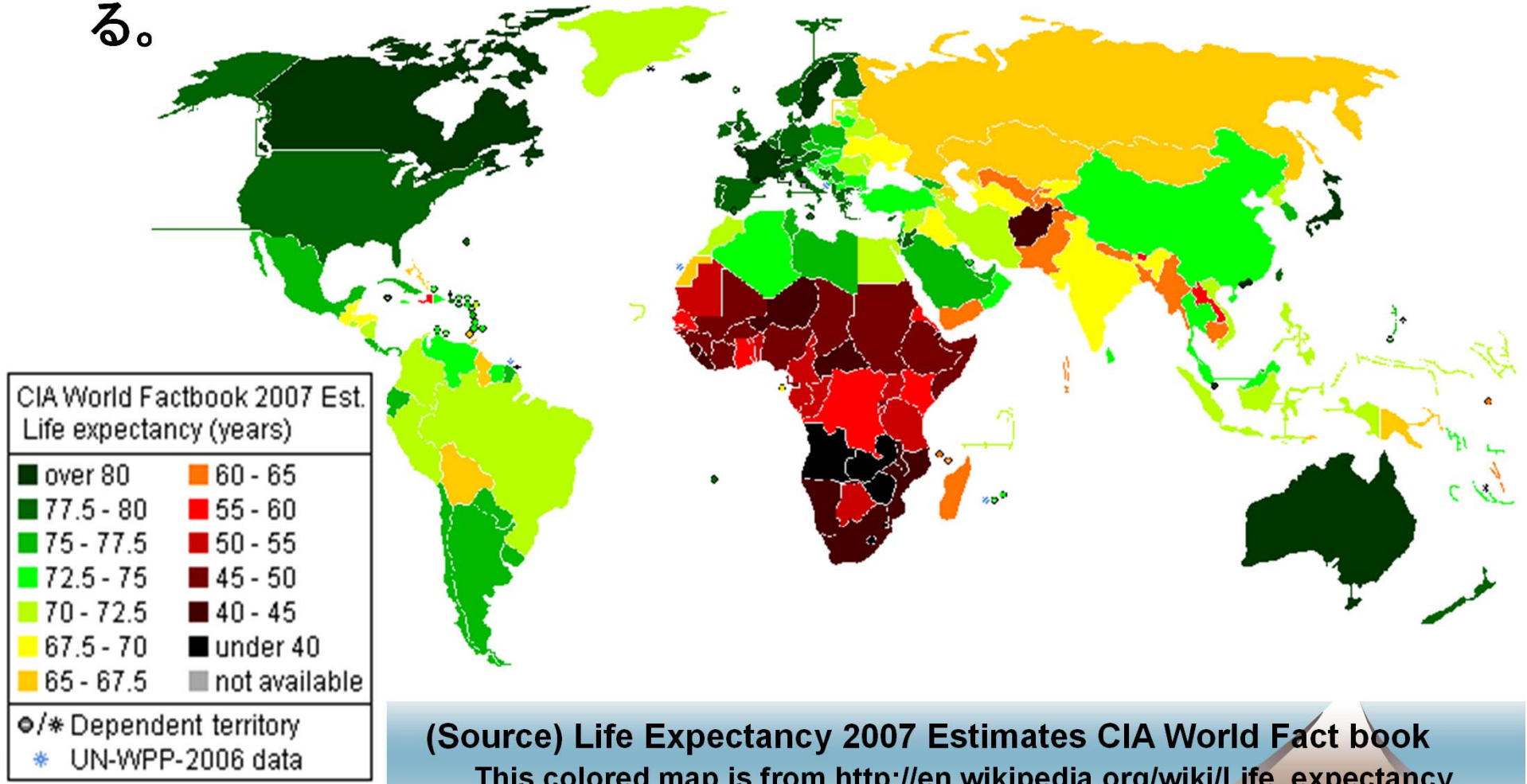
2010年11月26日

年金数理人 久保 知行

(この資料は、2010年3月開催の国際アクチュアリー
会議における発表をベースにしています。)

長寿リスク

平均寿命は、世界中いたるところで長くなってきている。



その中でも、日本の高齢化の状況は、最も深刻

<将来人口の中位推計>

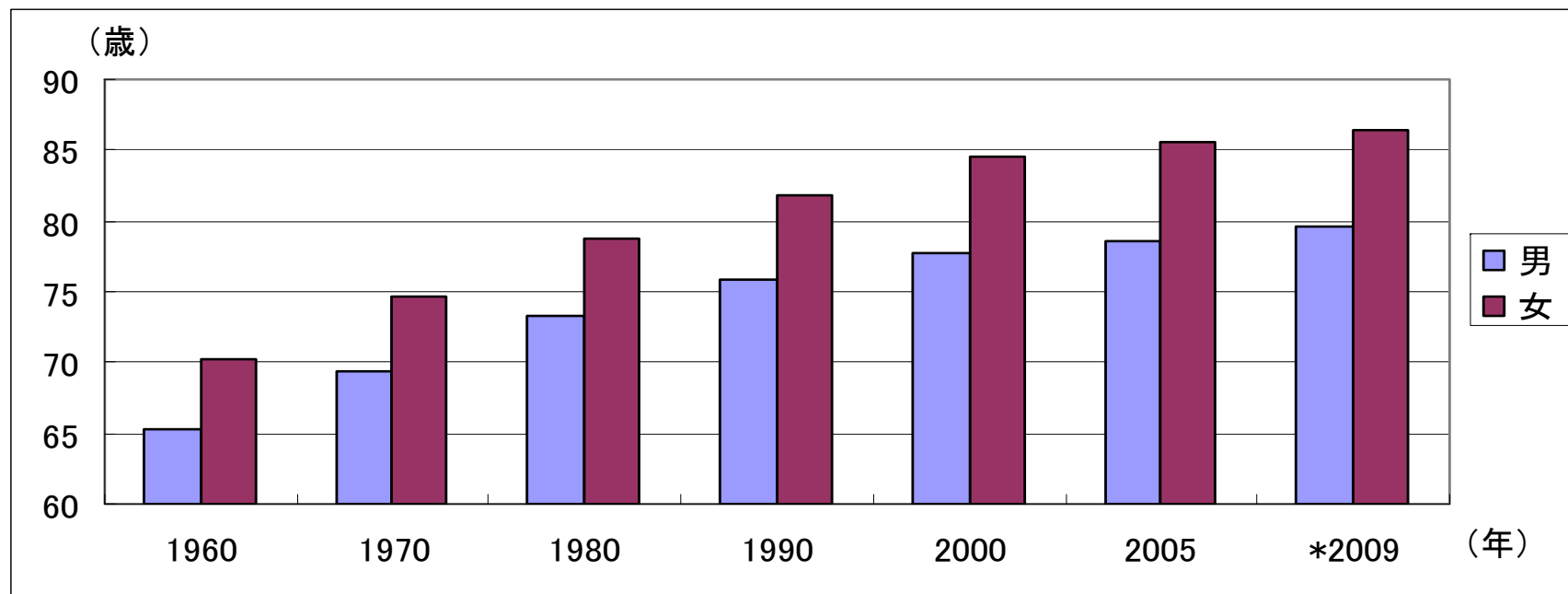
区分	2005年	2025年	2050年	2055年
総人口	1億2777万人	1億1927万人	9515万人	8993万人
65歳以上人口	2576万人 (20.2%)	3635万人 (30.5%)	3764万人 (39.6%)	3646万人 (40.5%)
扶養倍率 (*)	3.0	1.8	1.2	1.2

(*) 扶養倍率 = 20～64歳人口 / 65歳以上人口

(出所) 日本の将来推計人口 (2006年12月推計) 国立社会保障人口問題研究所

<http://www.ipss.go.jp/index-e.html>

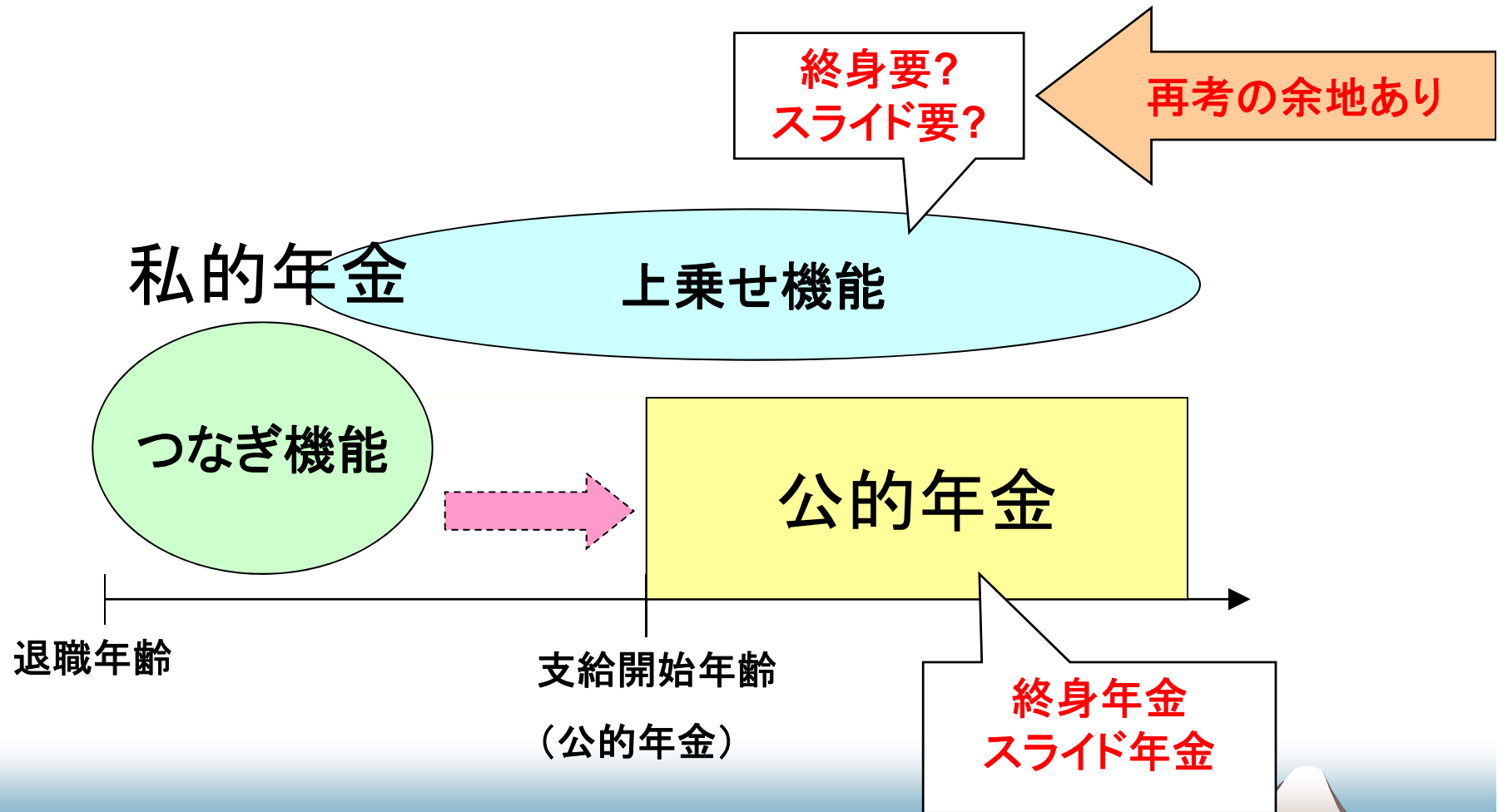
(日本における平均寿命の推移)



基準年	1960	1970	1980	1990	2000	2005	*2009
男	65.32	69.31	73.35	75.92	77.72	78.56	79.59
	-	+3.99	+8.03	+10.60	+12.40	+13.24	+14.27
女	70.19	74.66	78.76	81.90	84.60	85.52	86.44
	-	+4.47	+8.57	+11.71	+14.41	+15.33	+16.25

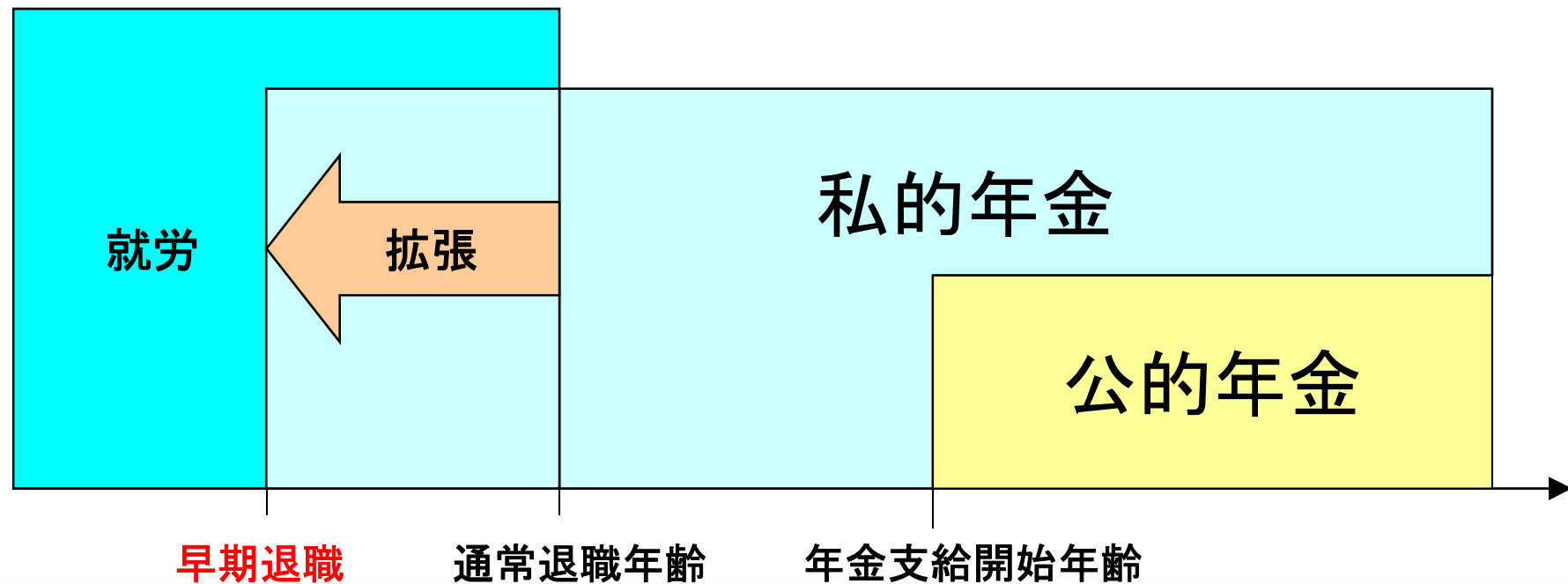
(注) * は簡易生命表

公的年金と私的年金との関係



20世紀における公的年金と私的年金の理想的関係

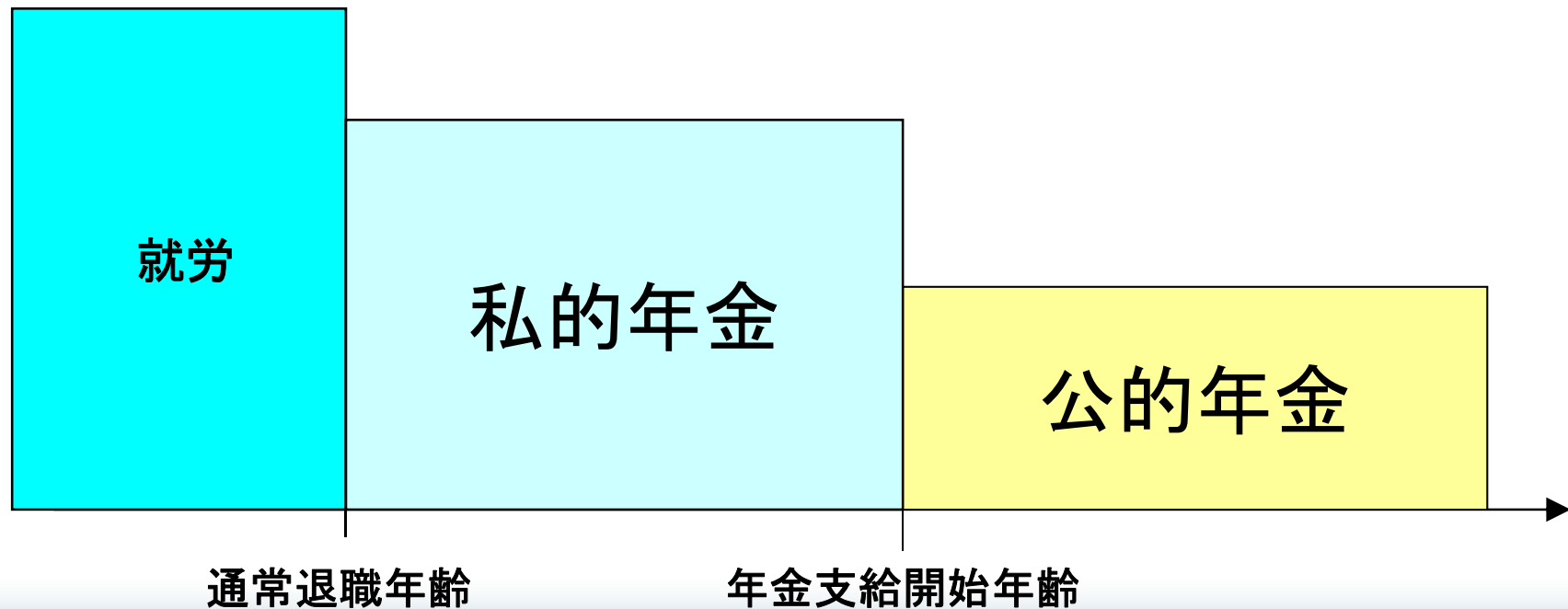
上乘せ主体の「豊かな老後」(Horizontal combination)



(退職(引退)年齢：就労停止)

21世紀における公的年金と企業年金の概念的関係

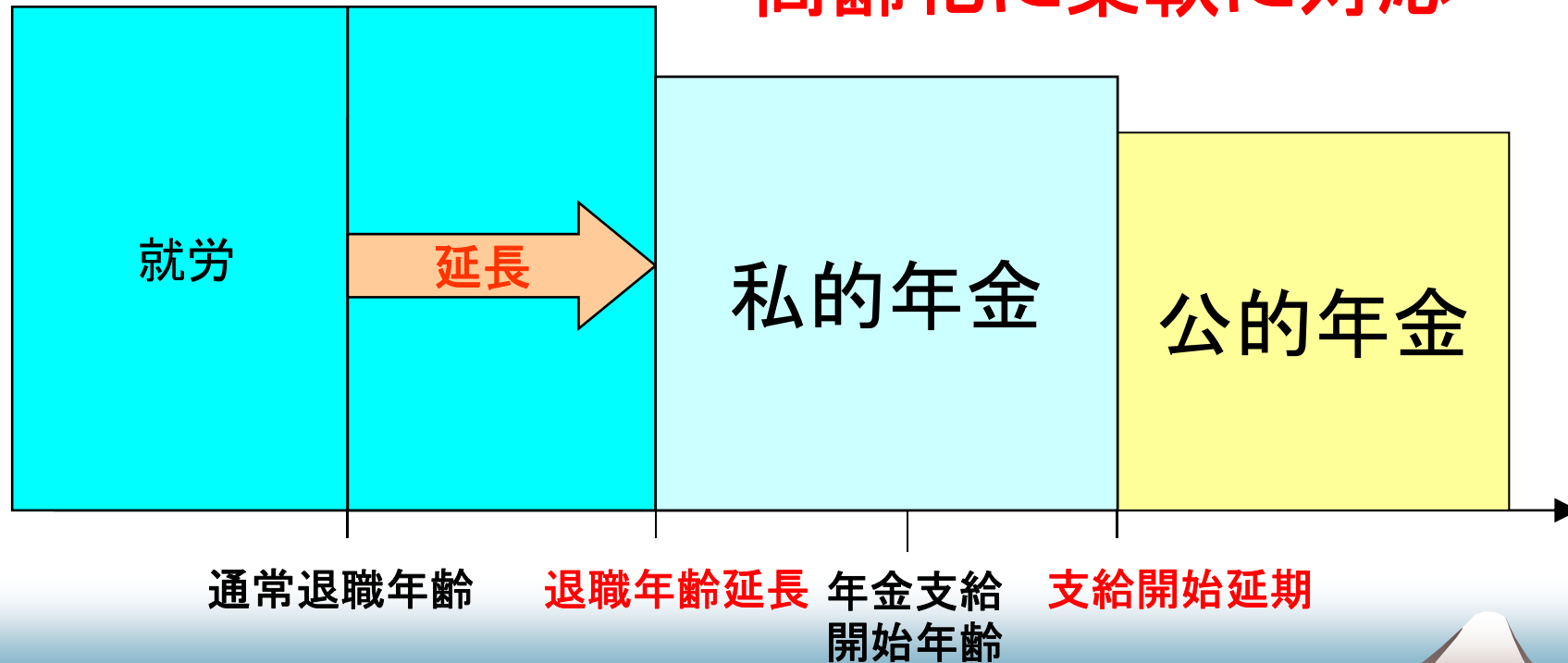
つなぎ主体の「安心できる老後」へ (**Vertical combination**)



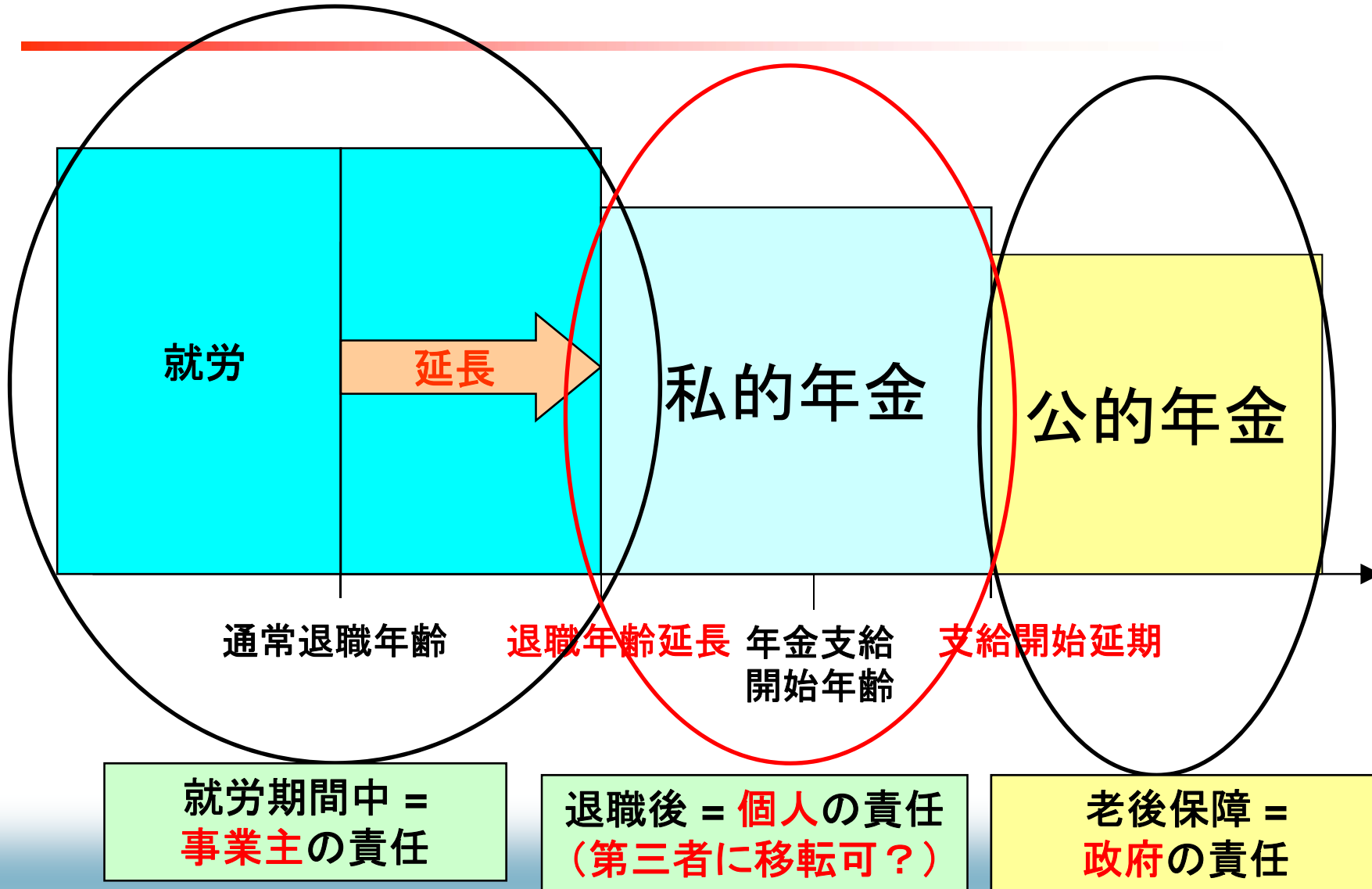
21世紀における公的年金と企業年金の概念的関係

つなぎ主体の「安心できる老後」へ (**Vertical combination**)

高齢化に柔軟に対応



新たな関係 (The **Vertical** combination)における責任分担



つなぎ期間中の有期でスライドのない年金なら、
発展してきた金融技術を用いて、**第三者への移転**も十分可能

単純な一例：年金支給に住宅ローンを活用

